

文芸

俳句

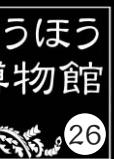
- 鳥帰る風がささいし空の道 池田 逸子
- 春愁や振子動かぬ掛時計 伊藤 敬子
- 生真面目な人に戯言四月馬鹿 伊藤 定男
- 突風に舞ひ去る土手や桜惜しむ 今関満喜子
- 停まるも流れもままよ花筏 魚地 照子
- 捨て仔猫立ち去りかねしタベかな 江森 悅子
- 騙すより騙されやすい四月馬鹿 大谷 武彦
- 風光る表札新た旧漢字 川島 孝夫
- 四月馬鹿農には通ぜず生きにけり 向後 寛
- 嘘を言い笑い飛ばして四月馬鹿 小松 藤男
- 古池や影を映してゆるる春 越川 福子
- 風の中土の匂ひの耕運機 佐瀬 輝夫
- 青き踏むゲートボールの人集ふ 宮倉 道子

短歌

- 春田打つ男一人や風の中 戸村 静華
- 蛤搔く足裏に答ありにけり 西崎さち子
- 四月馬鹿メール送る落ちつかず 早川 勇
- 手を上げてあいさつかわし山笑ふ 妙楽寺の本堂めざす男坂 押尾 輝子
- 登りてまずは息を整ふ 西山満里子
- 命日の夫のみ墓へ娘等は行き 病後の吾のみ家に残りぬ 鈴木 まさ子
- 冬五輪競技レベルの高さには 練習努力の凄さ浮かびぬ 田崎 尚美
- 日溜りの小草つまめば指肌に 触れてやわらか春の黒土 土屋 好
- 春来ればしだれ柳も知らぬ間に 苗を吹きはやも青み初めたり 平山 芳子
- 朝青龍辞めたる後の白鵬は 圧倒的に金勝果す
- 今年また葡萄の成長見守りつ 老いて二人で暮らせるしあわせ 池田 春江
- 返却口のつり錢言はず 高梨 千ヨ
- 病み重き弟の枕辺に吊さむと 痘み重き弟の枕辺に吊さむと 島田ますみ
- 折りゆく鶴の翔ぶかまへなす 齐藤つね子

春ひと日能樂堂の笛透る 鈴木とし子
摘草や小さき草や嘆みしめて 玉虫 栗扇
過ぎし思ひ出浮かび来るなり

旅先で求めし土鈴振るたびに 八角 三枝
との墨る朝幸夷の花花は 文結ぶがにさ搖ぎゆたり



新緑の中の白い妖精

平成五年から九年まで発掘

ものです。

調査された篠城跡の中で、木々が生い茂る初夏の地面で見つけたのが、写真の花です。

これらキンラン・ギンラン・ササバギンランはラン科の中でも同じ仲間で、身近な山野

背丈一〇センチに満たず、一輪一センチ足らずの花が四五輪、房となつて咲いています。よく見なければ見過ごします。

でも多く見ることができます。ラン科の植物は、ラン菌と呼ばれる共生菌と生活している

まい小さな小さな花で、それだけに真っ白の花は可憐に思えます。

この花はギンランと呼ばれる、ラン科の山野草の一種です。ギンランといえばキンランがあります。キンランは黄色くもとと草丈の高い花で、ギンランとは異なつて日当たりのいい所に咲く花です。このキンランと同じところに、

白い色の似たような草形で咲いているのがササバギンランです。ササバギンランはさら

に草形が大きく、草丈が五センチに及ぶものがあり、この仲間では最も大きく目立つ



白い妖精のような“ギンラン”